

日本史(14) 平城京の時代② ～地方官衙と「辺境」／藤原氏の進出政界の動揺～

○今回のポイント

律令国家は国力を充実させ地方支配を進めていく一方で、中央では藤原氏が政権争いを繰り広げた。

【地方官衙と「辺境」】

(1)交通制度

・官道

- ・[1. 駅路]…中央から地方に伸びる道路。山陽・東海・東山・北陸・山陰・南海・西海の七道からなる。
- ・[2. 伝路]…各郡家間などを結ぶ地方の道で、国司・郡司によって管理され、網目状の構成を取った。
- ・駅制…都と地方の国府を結ぶ駅路に16kmごとに[3. 駅家]を置いた公的な交通制度。

(2)地方官衙の様子 ※官衙とは役所のこと。

- ①[4. 国府](国衙)…都から派遣された国司が地方を統治する拠点。一国内の政治・経済・文化の中心地。
 - ・[5. 国庁](政庁：政務儀礼を行う)、役所群(各種の実務を行う)、国司の居館、倉庫群などが設置。
 - ・国府の近くには[6. 国分寺]も建立。
- ②[7. 郡家]ぐうけ＝郡衙…各郡の郡司の統治拠点。
 - ・郡庁、役所群、郡司の居館、倉庫群などの施設を持つ。近くには郡司の氏寺も。
 - ・実際の民衆支配は[8. 郡司]
 - ・国司は任期がある。郡司は伝統的な地方豪族が[9. 終身制]で任命されるから。
 - ・[10. 漢字]文化の地方展開
 - ・郡家の遺跡から木簡・墨書土器などの文字資料が出土。律令制の文書主義にもとづき地方に広まる。

(3)国家主導の経済政策

- ①耕地拡大…鉄製農具や進んだ灌漑技術を用いる。
- ②鉱物採掘…[11. 長門]の銅、[12. 陸奥]の金。
- ③技術派遣…[13. 養蚕]、高級織物の技術者を地方に派遣して生産促進。各地で税のための特産品。

(4)辺境政策～東北地方([14. 蝦夷]政策)～

※律令にもとづく国家体制が実現し、充実した力をもった政府 ⇒ 支配領域の拡大

①日本海側

- a)7世紀半ば⇒孝徳天皇の大化改新中、唐の高句麗攻撃で対外的緊張。[15. 淳足柵・磐舟柵]を設置
- b)7世紀後半⇒斉明天皇、658～660に[16. 阿倍比羅夫]を遣わし、秋田地方など北方の蝦夷と関係。
- c)8世紀⇒712年に[17. 出羽国]設置。733年には[18. 秋田城]が築かれ日本海側の制圧。

②太平洋側

- a)7世紀後期 ⇒[19. 城柵](蝦夷に対する防御施設・東方経営のための行政施設)設置。
- b)724年[20. 多賀城]設置(現在の仙台平野)。陸奥の国府と鎮守府が置かれ、古代東北の政治・軍事の拠点。律令に基づく支配の浸透をはかる行政的性格を強く持っていた。

(5)辺境政策～九州地方～

- ①南九州の[21. 隼人]の人々の地域を制圧 ⇒[22. 薩摩国]・[23. 大隅国]を置く。
- ②[24. 種子島]・[25. 屋久島]も行政区画化⇒南西諸島の島々、政府に赤木などの産物を貢進。

【藤原氏の進出と政界の動揺】

(1)[26. 藤原不比等]

①藤原不比等を中心に律令制度の確立

大宝律令(701) → 平城京遷都(710) → 蓄銭叙位令(711) → [27. 養老律令](718)

②旧来諸子勢力の後退：[28. 大伴氏・佐伯氏]の勢力が後退する

③婚姻政策：[29. 宮子]×文武天皇＝聖武天皇 → [30. 光明子]×聖武天皇＝孝謙天皇

(2)[31. 長屋王](天武天皇の孫。壬申の乱で活躍した高市皇子の子。妻は文武天皇の妹吉備内親王)

①諸政策…土地政策のため開墾を奨励する[32. 百万町歩開墾計画](722)や新たに開墾した者には3世にわたって土地私有を認める[33. 三世一身法](723)を実施。

②[34. 長屋王の変](729)…光明子立后問題をめぐって長屋王は藤原四子(不比等の四人の子供)と対立。藤原四子は長屋王に謀反の疑いがあるとして長屋王の邸を囲み、妻の吉備内親王と共に自殺させた。

(3)[35. 藤原四子](不比等の子ども；南家の武智麻呂・北家の房前・式家の宇合・京家の麻呂)

①[36. 光明子]立后…藤原四子、聖武天皇の皇后(正妻)に異母姉妹である光明子を立てることに成功。皇后は皇族であることが条件とされており、天皇亡き後に臨時に政務を見たり、自ら天皇に即位したりすることもあり、皇位継承権への発言権を持てる立場でもあった。

②[37. 天然痘]で死去(737) ⇒藤原四子、相次いで死亡。

(4)[38. 橘諸兄]

①唐から帰国した[39. 玄昉]・[40. 吉備真備]らが聖武天皇に重用されて活躍。

②[41. 藤原広嗣の乱]…玄昉・吉備真備の排除を求めて九州で大規模な反乱を起こすが鎮圧される。

③朝廷の動揺

・聖武天皇、遷都を繰り返す：[42. 恭仁京]→[43. 難波宮]→[44. 紫香樂宮]

・[45. 鎮護国家]の思想…社会不安を仏教の力に依存し、国家の安定をはかる。

・[46. 国分寺建立の詔](741)…諸国に国分寺・国分尼寺を作らせる。

・[47. 大仏造立の詔](743)…聖武天皇の遷都中、紫香樂宮で出されるが、745年に平城京に戻ると奈良で大仏が作られた。ちなみにこの年に墾田永年私財法も出されている。

・[48. 開眼供養](752)…聖武天皇が娘の孝謙天皇に譲位後、東大寺大仏がようやく完成、盛大な開眼供養の儀式が行われた。聖武太上天皇・光明皇太后・孝謙天皇が儀式に臨み、文武百官、インド・中国僧をはじめ僧1万人が参列する盛儀であった。

(5)[49. 藤原仲麻呂]

①[50. 橘奈良麻呂の変]…孝謙天皇の時代、仲麻呂が光明皇太后と結んで勢力を伸ばす。橘諸兄の息子；奈良麻呂は仲麻呂を倒そうとするが逆に滅ぼされた。

②栄光と孤立…仲麻呂は[51. 淳仁天皇]を擁立。恵美押勝の名を賜り、経済的特権を得て権力独占、大師(太政大臣)にのぼる。だが、後ろ盾であった光明皇后が死去すると孤立した。

③[52. 恵美押勝の乱](藤原仲麻呂の乱)…孝謙太上天皇が自分の看病をしてくれた道鏡を寵愛し、淳仁天皇と対立。仲麻呂は危機感を募らせて挙兵するが先制され滅ぼされた。淳仁天皇は廃されて淡路に流され、孝謙太上天皇が重祚して[53. 称徳天皇]となる。

(6)[54. 道鏡]

①道鏡の隆盛…称徳天皇(孝謙太上天皇)の支持で[55. 太政大臣禪師]さらに法王となる。

②宇佐八幡宮神託事件…神託により道鏡を皇位につける事件。[56. 和気清麻呂]により妨害。

③道鏡の失脚…称徳天皇死後、道鏡は[57. 下野薬師寺]の別当として追放され死去。

(7)[58. 藤原百川]…皇統が天武系から天智系へ。百川は[59. 光仁天皇](天智の孫)を擁立。

道鏡時代の仏教政治で混乱した律令制度と国家財政の再建が目指された。